

世界に誇れる、ものづくり

2023年12月期第1四半期

決算説明資料

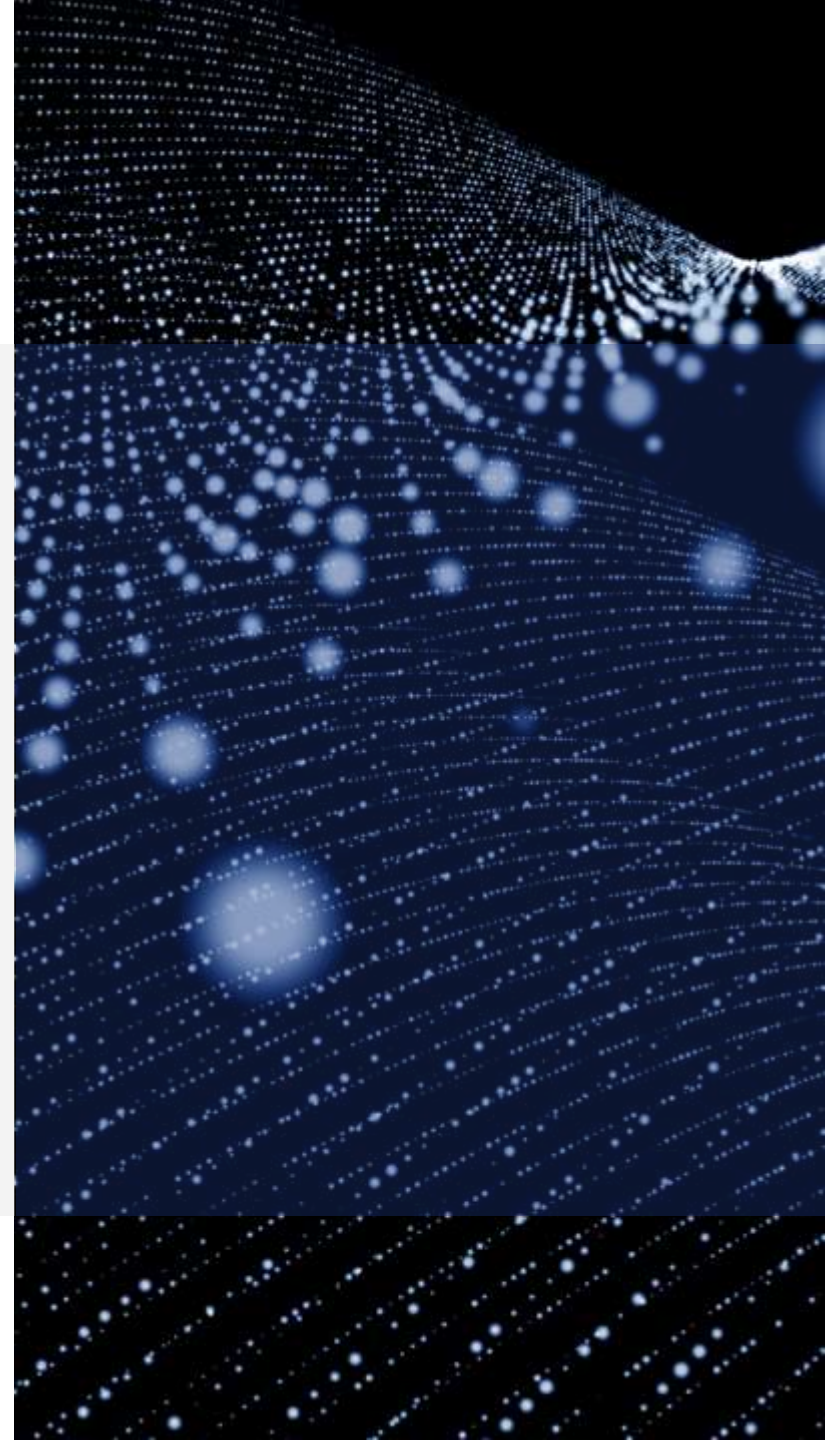
湖北工業株式会社

2023年5月11日

湖北工業はアルミ電解コンデンサ用リード端子と
海底光通信用部品のリーディングカンパニーです。

目次

- I . 2023年12月期1Q 決算概況 P. 2
- II . 2023年12月期 業績見通し P.28



I. 2023年12月期1Q 決算概況

2023年12月期(1Q)のハイライト

- ・ リード端子事業において売上が想定以上に悪化
情報通信機器市場の低迷による部材の在庫調整深刻化
自動車用エレクトロニクス市場において予想外の調整が影響
- ・ 光部品・デバイス事業はほぼ計画通りで推移、サプライチェーンの混乱を契機とした在庫調整は計画に織込み

● マクロ環境

- ・ コロナが徐々に沈静化し、巣ごもり需要の反動と、サプライチェーンの正常化に伴う一部過剰在庫の調整が進展
- ・ 中国などにおいて景気回復は緩慢な動き
- ・ 世界的なインフレの進行、欧米における金融不安に伴い、景気の先行き懸念が高まる
- ・ ロシア・ウクライナ情勢、米中摩擦等の地政学リスクが継続

● 事業環境

- ・ 情報通信機器市場に回復の兆しが見られず、厳しい状況が続く
- ・ 自動車市場は、サプライチェーンが徐々に正常化に向かう中で、欧州メーカー中心に一部部材の過剰在庫の調整が発生
- ・ 主要材料価格は前年比で下落するも、需要が低迷
- ・ 海底ケーブル市場は、サプライチェーン混乱が落ち着きつつあるものの、在庫調整が継続
- ・ スリランカ情勢は一段落、通常操業継続

損益計算書(1Q)の概要

前期の第4四半期から回復せず厳しい状況が継続

(単位：百万円)

	2022年12月期	2023年12月期			4Q (10月-12月)	2022年12月期	
	1Q (1月-3月)	1Q (1月-3月)	対前年同期 増減	前年同期比		対直前四半期 増減	直前四半期比
売上高	3,954	3,521	△433	△11.0%	3,771	△250	△6.6%
リード端子事業	2,052	1,864	△188	△9.2%	2,071	△207	△10.0%
光部品・デバイス事業	1,901	1,656	△244	△12.9%	1,699	△43	△2.5%
営業利益	1,062	846	△216	△20.4%	769	+77	+10.0%
営業利益率	26.9%	24.0%	△2.9pt	—	20.4%	+3.6pt	—
経常利益	1,299	882	△416	△32.0%	354	+527	+148.7%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	886	564	△321	△36.3%	373	+191	+51.2%
為替レート (期中平均)	116.34円/\$	132.40円/\$			141.43円/\$		

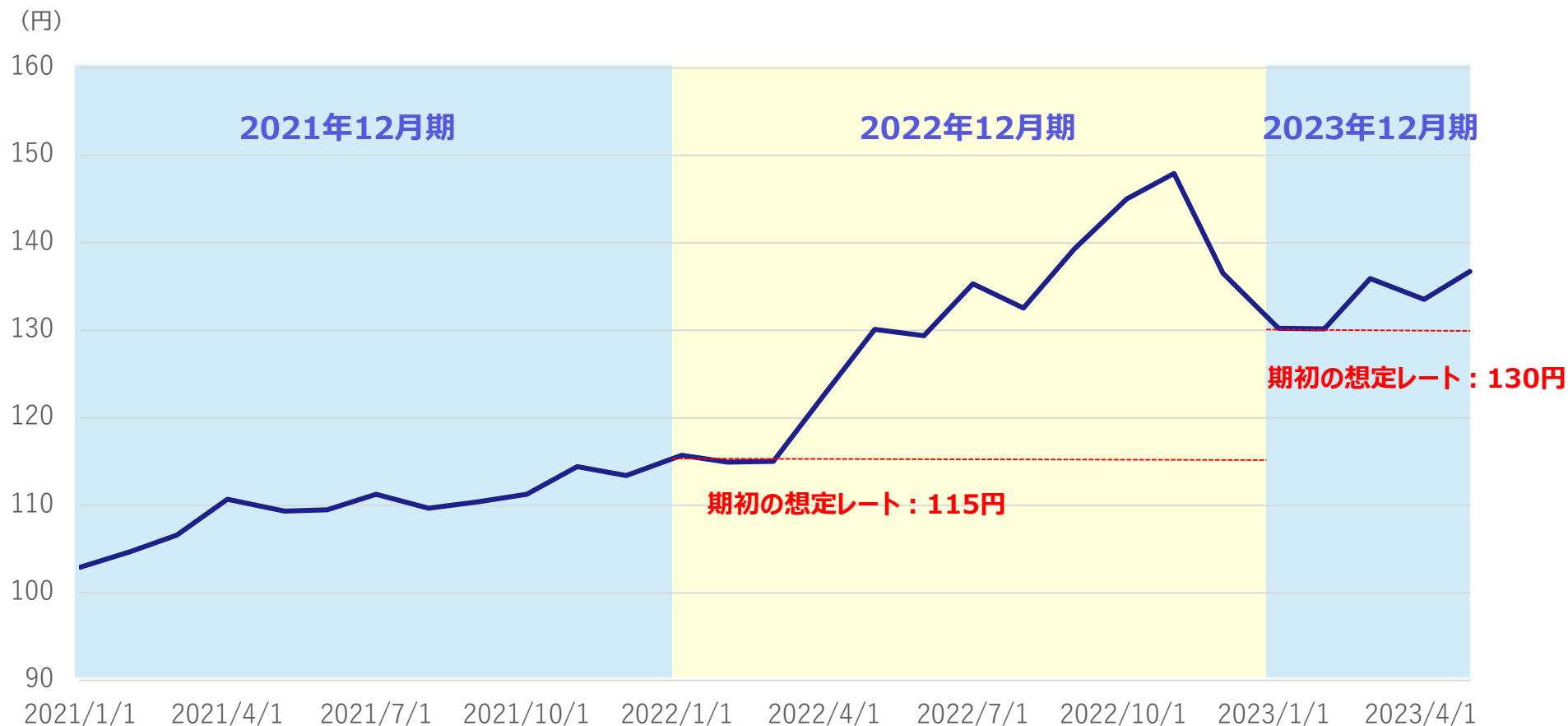
※百万円未満切り捨て

- ・ 売上減少に伴い固定費比率が上昇し、営業利益率は2.9pt低下
- ・ 営業外損益で為替差益が170百万円減少したため、経常利益は前年同期比32.0%減少

2023年12月期(1Q)の事業環境

2022/12期の円安トレンドに対し、2023/12期第1四半期は期初の想定レートに近い水準で推移

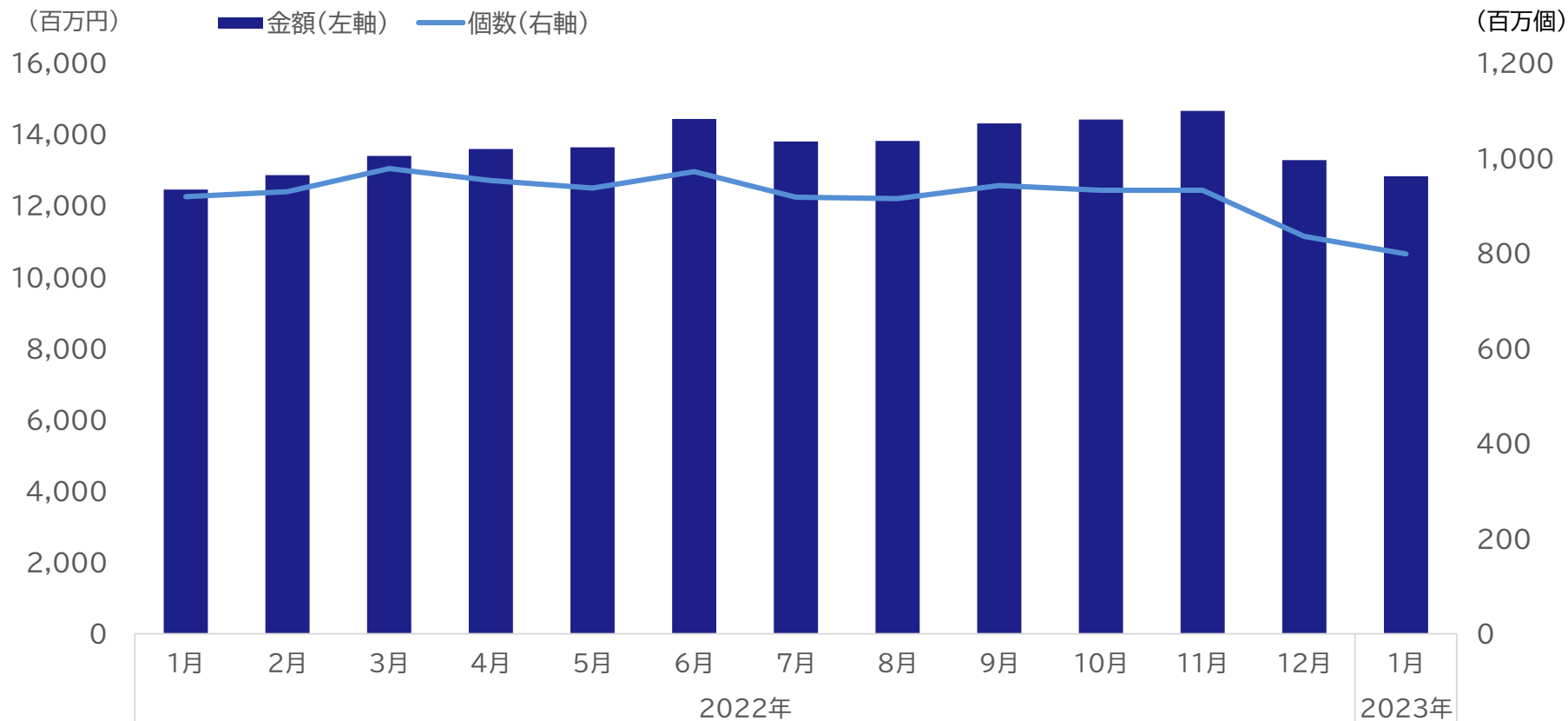
USD/JPYトレンドグラフ



2023年12月期(1Q)の事業環境

アルミ電解コンデンサ市場は、2022年末から在庫調整のために急減速

アルミ電解コンデンサ生産量（日系メーカーのグローバル出荷）



(出所：JEITA 電子部品グローバル出荷統計より)

セグメント別業績及び国内外売上高比率(1Q)

- ・ リード端子、光部品・デバイスともに売上高10%前後の減少
- ・ 国内売上比率は光部品・デバイスの顧客構成の変動により上昇

売上高 (百万円)

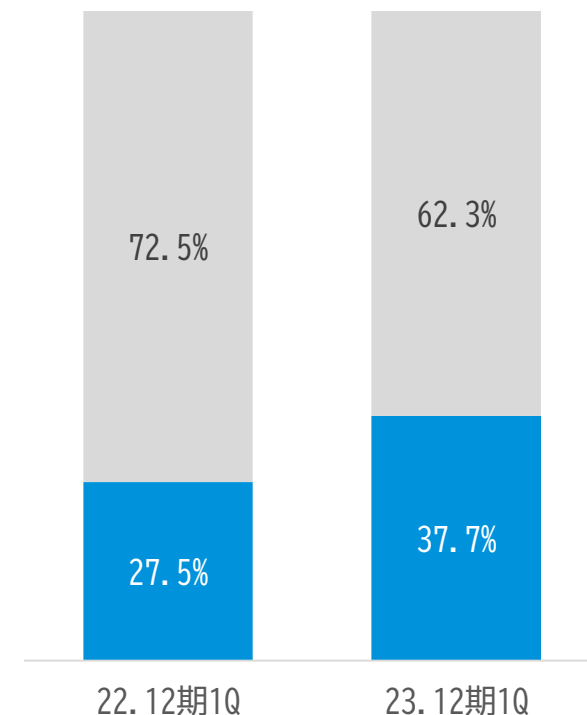
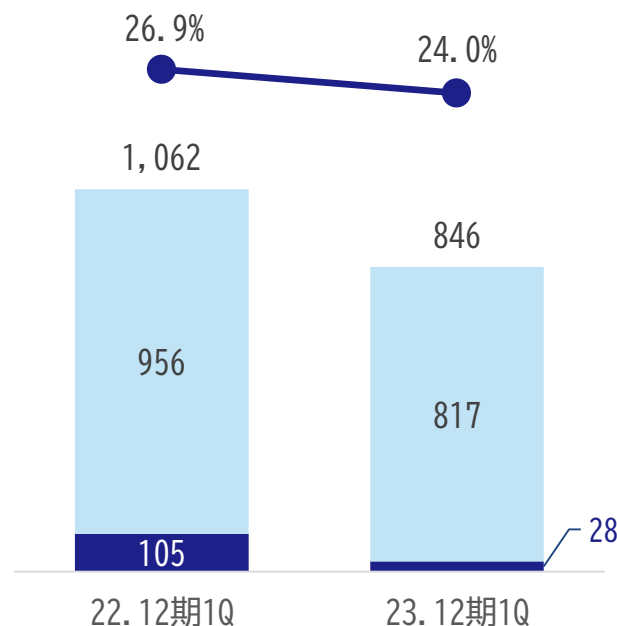
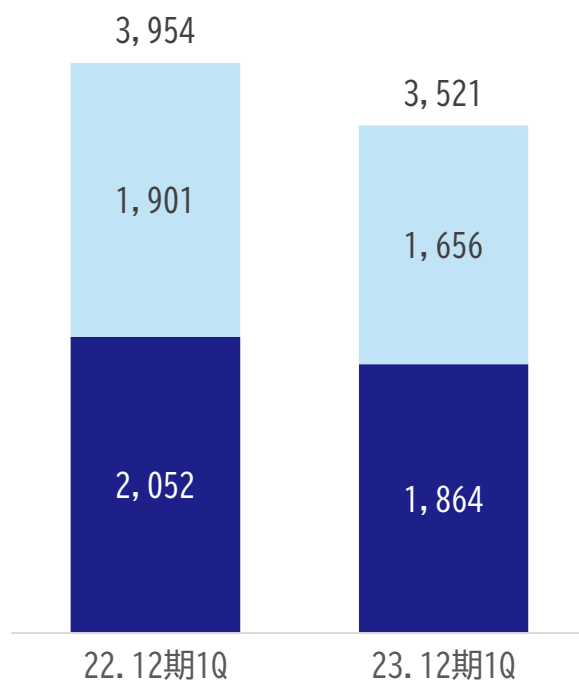
営業利益 (百万円、%)

国内外売上高比率

光部品・デバイス事業
リード端子事業

光部品・デバイス事業
リード端子事業
営業利益率

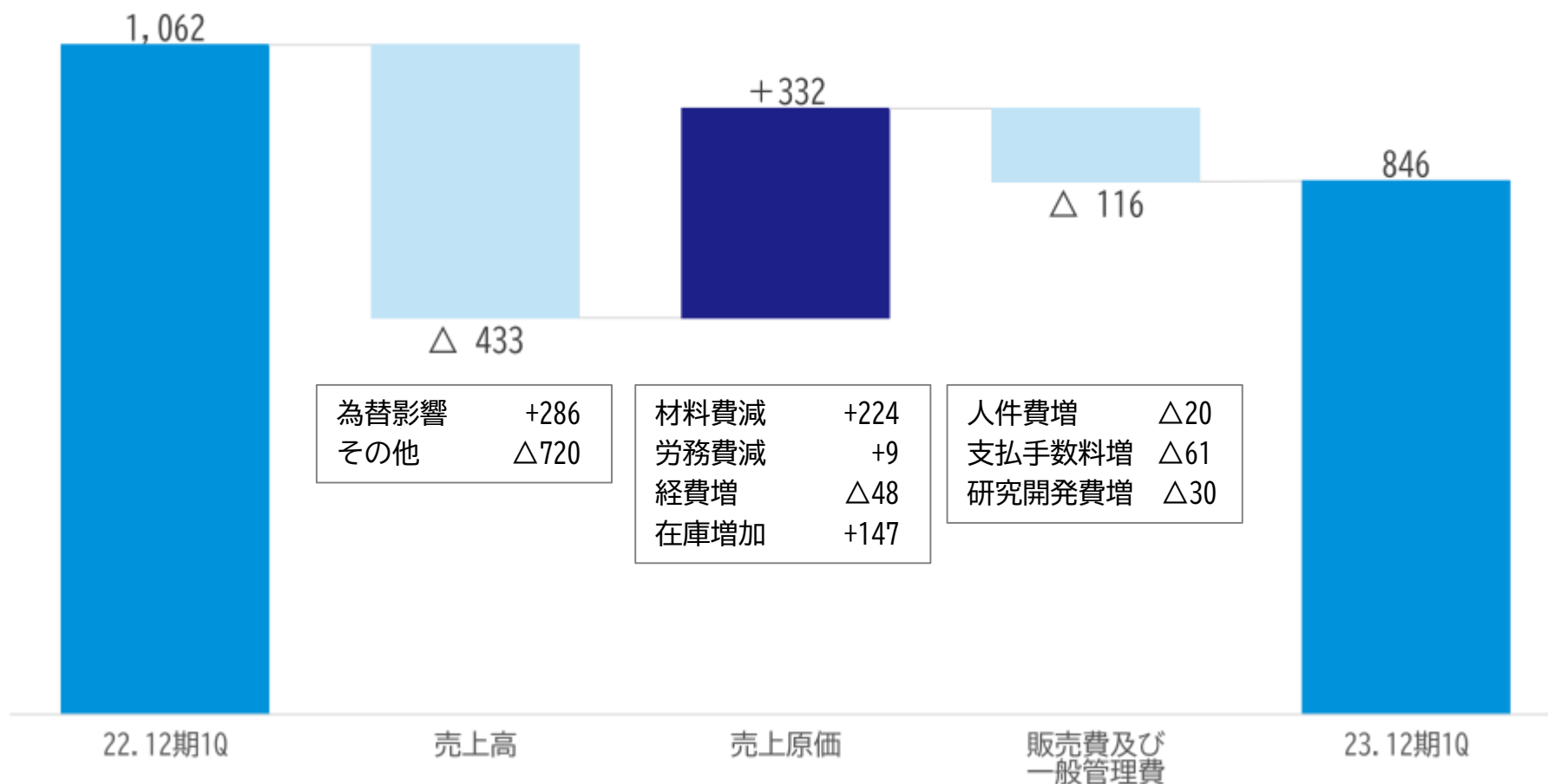
日本 海外



営業利益(1Q)の増減要因（前年同期比）

両事業における数量減が大きく響いているが、材料費の減少及び蘇州工場の移転に伴う一時的な在庫増により216百万円の減益に留まる

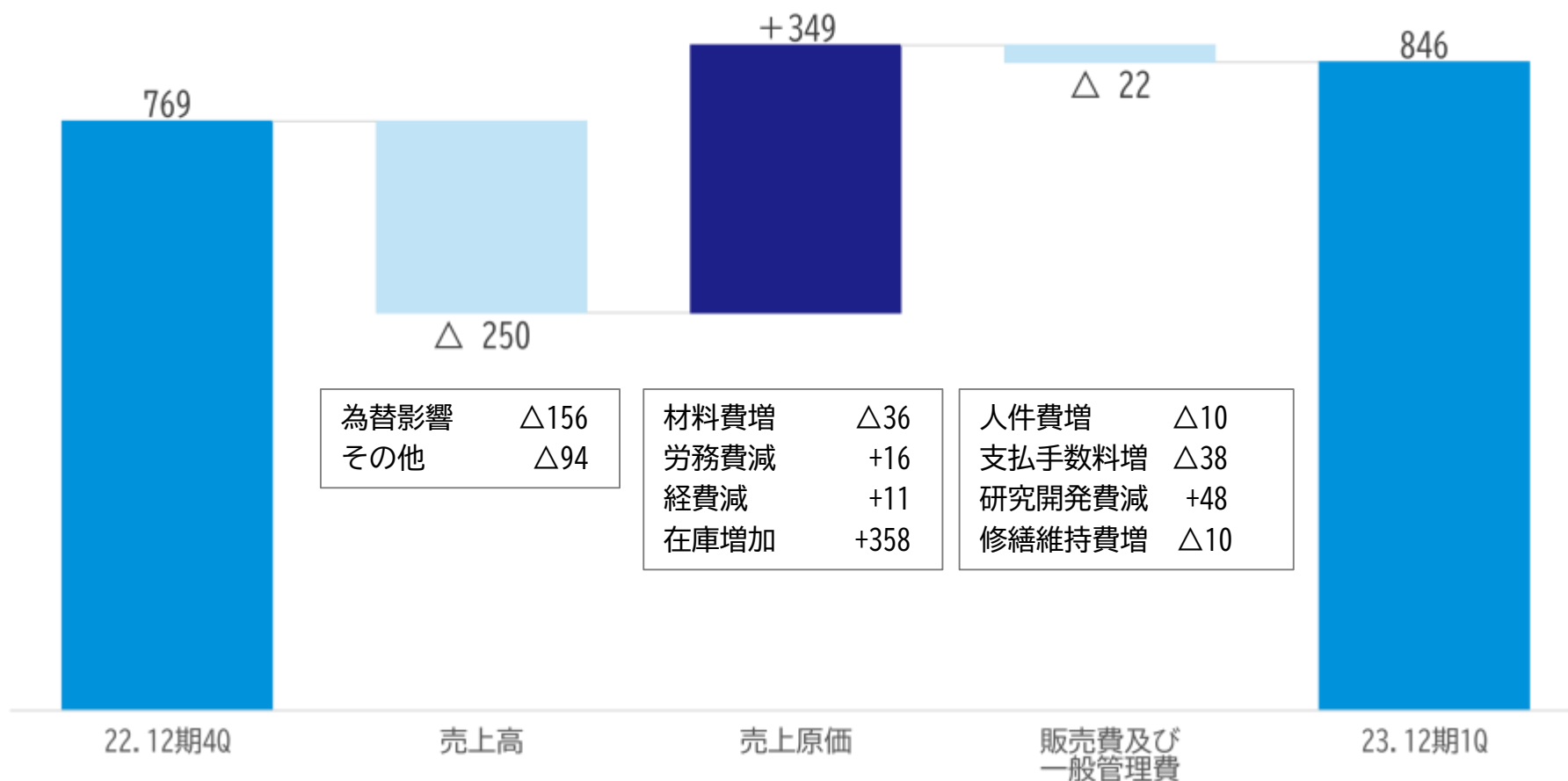
(百万円)



営業利益(1Q)の増減要因 (前四半期比)

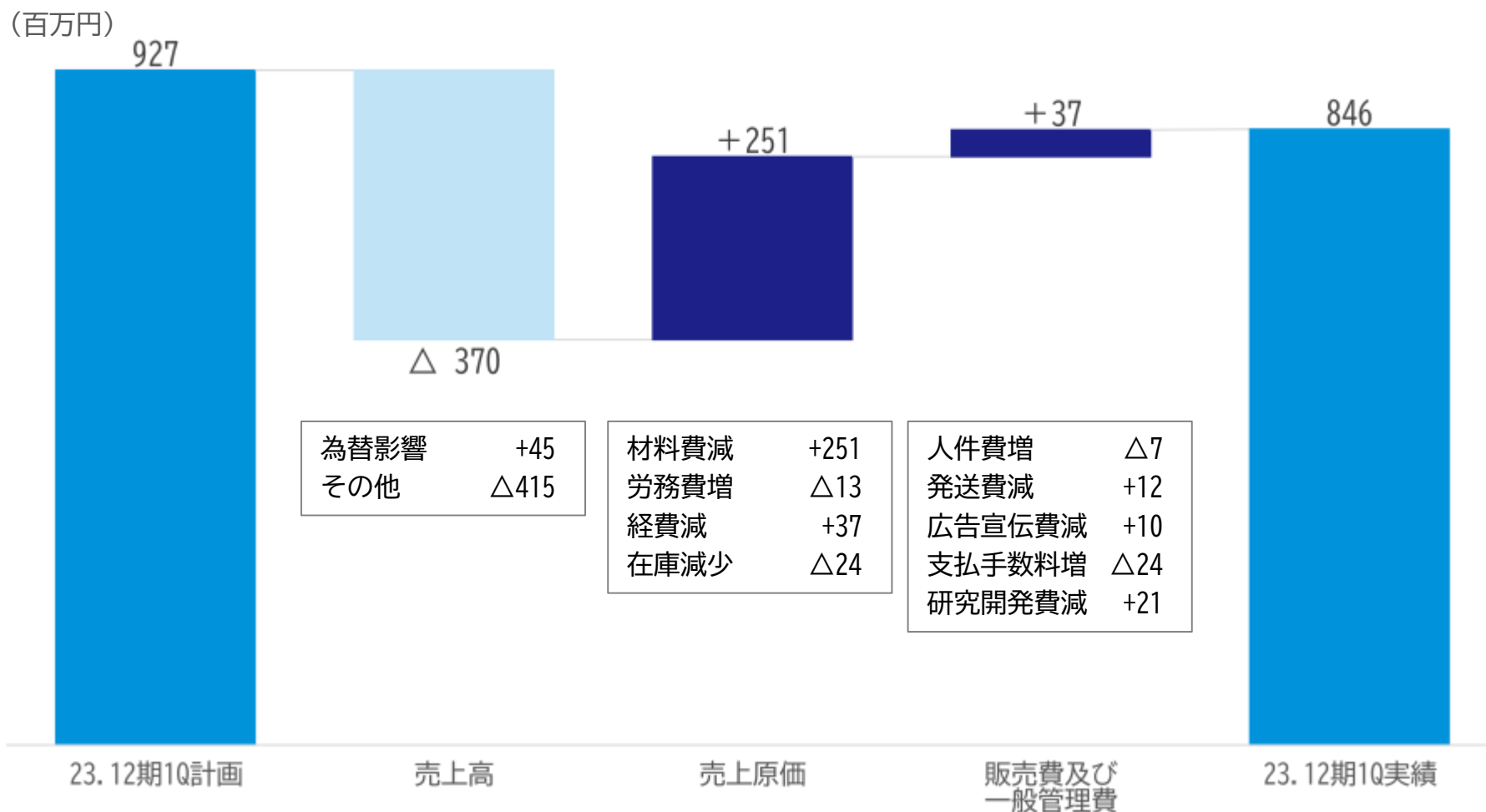
リード端子事業における在庫増が大きく寄与し、前四半期比では、77百万円の増益を確保

(百万円)



営業利益(1Q)の増減要因 (計画比)

リード端子事業の数量減が大きく響き、計画比8.7%の減益



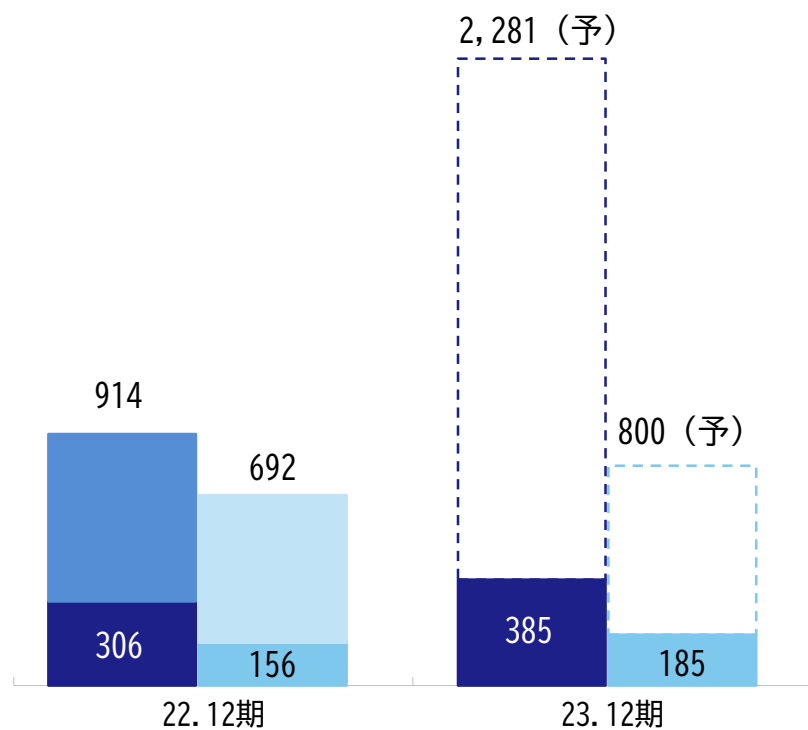
設備投資・研究開発費(1Q)

設備投資・研究開発投資は概ね計画通りに進行

設備投資・減価償却費 (百万円)

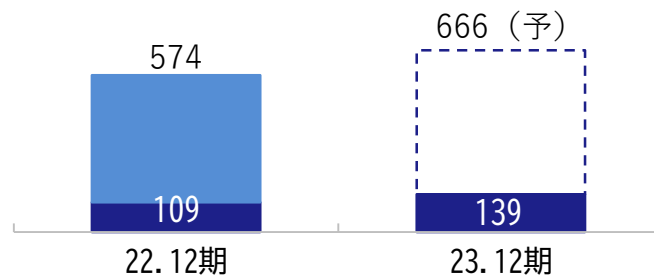
設備投資額
減価償却費

■通期 ■1Q実績
■通期 ■1Q実績



研究開発費 (百万円)

■1Q ■通期



貸借対照表(1Q)

(単位：百万円)

貸借対照表	22.12期末	23.12期1Q末	増減額	備考	
流動資産	17,227	16,697	△530	現金及び預金 棚卸資産	△705 +270
固定資産	7,057	7,339	+281	建設仮勘定	+258
資産合計	24,285	24,036	△248		
流動負債	3,375	3,127	△248	未払法人税等	△281
固定負債	2,613	2,435	△177	長期借入金	△193
負債合計	5,988	5,562	△426		
純資産合計	18,296	18,473	+177		
負債・純資産合計	24,285	24,036	△248		

※百万円未満切り捨て



<2023年12月期1Q セグメント別の状況>

セグメント別業績(1Q) - リード端子

市況悪化に伴い、減収減益

(単位：百万円)

	2022年12月期	2023年12月期			2022年12月期	2023年12月期		
	1Q (1月-3月)	1Q (1月-3月)	対前年同期 増減	前年同期比	4Q (10月-12月)	1Q (1月-3月)	対直前四半期 増減	直前四半期比
売上高	2,052	1,864	△188	△9.2%	2,071	1,864	△207	△10.0%
営業利益	105	28	△77	△72.8%	△34	28	+63	—
営業利益率	5.2%	1.5%	△3.7pt	—	△1.7%	1.5%	+3.2pt	—

※百万円未満切り捨て

2023年12月期1Qの概況

● 期初の見込みより厳しい足元の事業環境

- ・ サプライチェーンの混乱の中で、2022年6月までに積み上がった過剰在庫の適正化に伴う調整が発生
- ・ 情報通信機器市場は昨年から在庫調整が続き、パソコン等IT関連機器向け売上も低調

● 業績回復への取り組み

- ・ 新商品「バリレス」の拡販活動は順調だが一部採用スケジュール遅延発生、売上は4月以降順次増加の予定
- ・ 不採算製品についての価格見直しを推進、主要顧客と原則合意
- ・ 高効率・高精度を実現する新しい溶接技術の開発への取り組み

市場環境、経営環境について、期初想定vs現在の状況比較(リード端子)

1. お客様、市場調査会社等からの情報に基づく当社の認識

	期初コメント	現在の状況
(1) アルミ電解 コンデンサ市場全体 (主に日系顧客の状況)	● 2023年は、2022年に対して車載向けは半導体不足が続き今年前半は微増、後半は回復、非車載分野は微減と予想。	➤ 車載向けでは、半導体不足が長引き、欧州顧客向け中心に想定外の在庫調整が継続、年央まで続く見通し
	● 通信機器分野は、中国市場の回復遅れで、今年前半は厳しい状況が続き、下期から少しずつ回復と予想。	➤ 中国市場で一部回復の兆しが見られるが、全体としては厳しい状況が続く見通し
(2) 用途別の動向	● 自動車市場向けハイブリッドコンデンサが約30%増（一部既存市場を置き換え）	➤ 全体として好調だが、一部で流通在庫過多による在庫調整が発生
	● 自動車市場は全体は微増だが、EV市場は大きく伸びると想定される	➤ EV市場向けは増加が継続するも、自動車市場全体としては欧米を中心に在庫過多による調整が年央まで続く見通し
	● ICT市場について、PC・サーバー・スマートフォン市場は今年前半までは低迷が続く。	➤ 一部のPC、サーバー、スマホのチャージャー各メーカー向けが回復しているが、全体では想定通りの厳しい状況が今年後半まで続く見通し

市場環境、経営環境について、期初想定vs現在の状況比較(リード端子)

2. 当社の経営環境

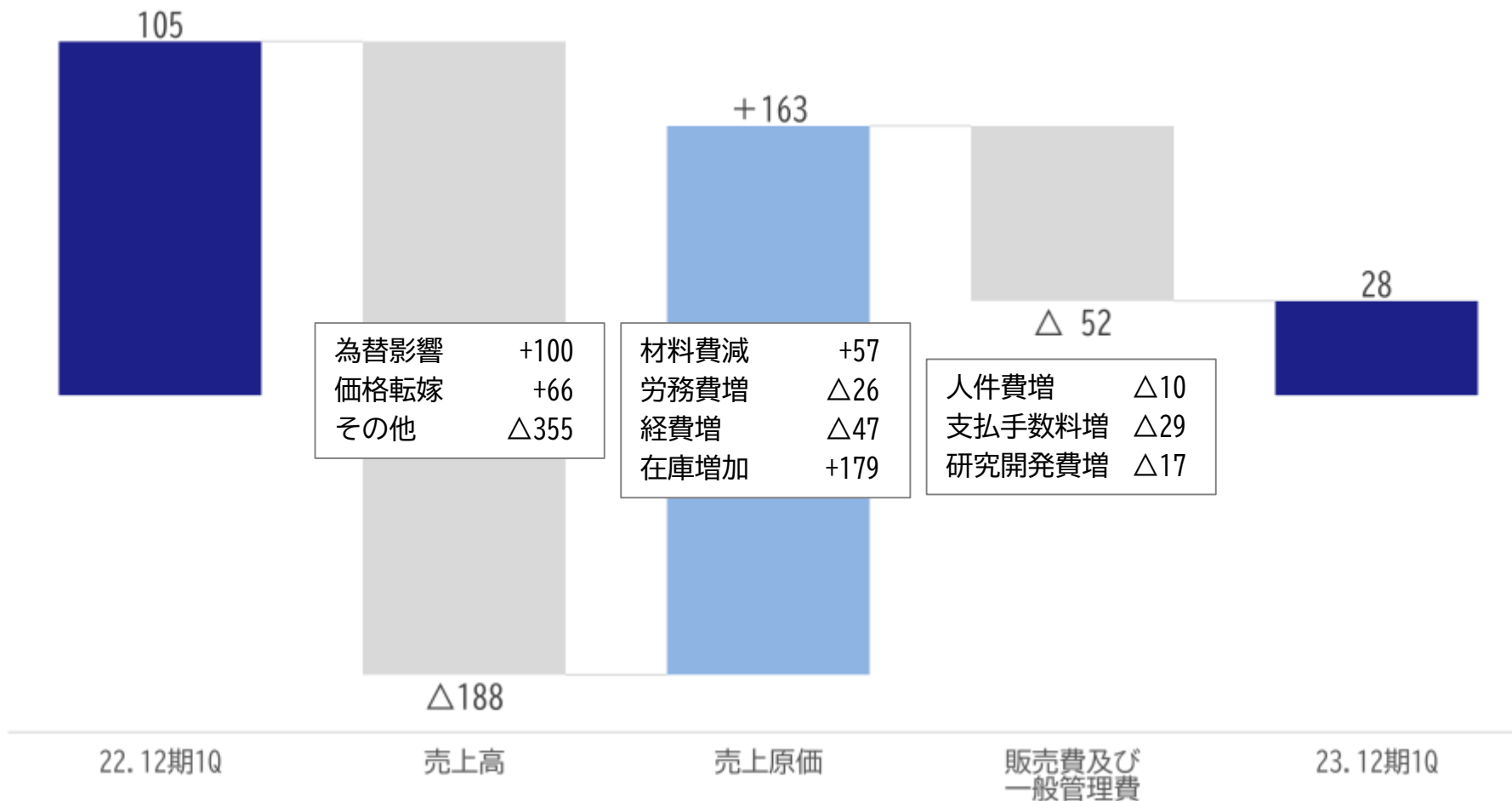
	期初コメント	現在の状況
(1) 生産	● 2023年7月～9月まで蘇州工場での生産停止、10月から生産回復の見通し。	➤ 移設は一か月前倒し、6月に旧工場での生産停止、新工場は8月から順次稼働開始
	● 蘇州工場で6月迄の在庫積み上げ、在庫販売、及び東莞・マレーシア工場への設備移動、増産。	➤ 5月までに在庫積み上げ完了
	● 蘇州工場の移転に伴い、海外生産比率を、蘇州：東莞：マレーシア=5：2：2→3：3：3に変更	➤ 計画通り、変更なし
	● 移転に伴うコスト負担は約5億円	➤ 計画通り、変更なし
(2) 売上	● ハイブリッドコンデンサの伸びに合わせて、新商品のバリレスタイプを大幅増産（全拠点）し、新商品の比率を20%へ一気に引き上げる。	➤ 一部採用遅れ、新商品(高機能品)比率は、10～12月に15%程度の予想
	● バリレス以外の新商品についても車載市場の伸びに応じ、後半の増加を想定	➤ 年後半の増加の方向に変化なし
	● 車載向けEDLC（電気二重層キャパシタ）向けが、徐々に拡大	➤ 計画通り徐々に拡大
(3) 技術	● リード端子技術の要となる新溶接技術の開発に着手（2024年実用化を目標）	➤ 進捗は順調に推移
	● 高速回転化（300rpm→350rpm）、可動率（85%→90%）、OEE（設備総合効率）（83%→90%）	➤ 進捗は順調に推移

セグメント別

営業利益(1Q)の増減要因 (前年同期比) - リード端子

数量減により減収影響が大きく大幅な減益であるが、在庫増加により減益幅は縮小

(百万円)

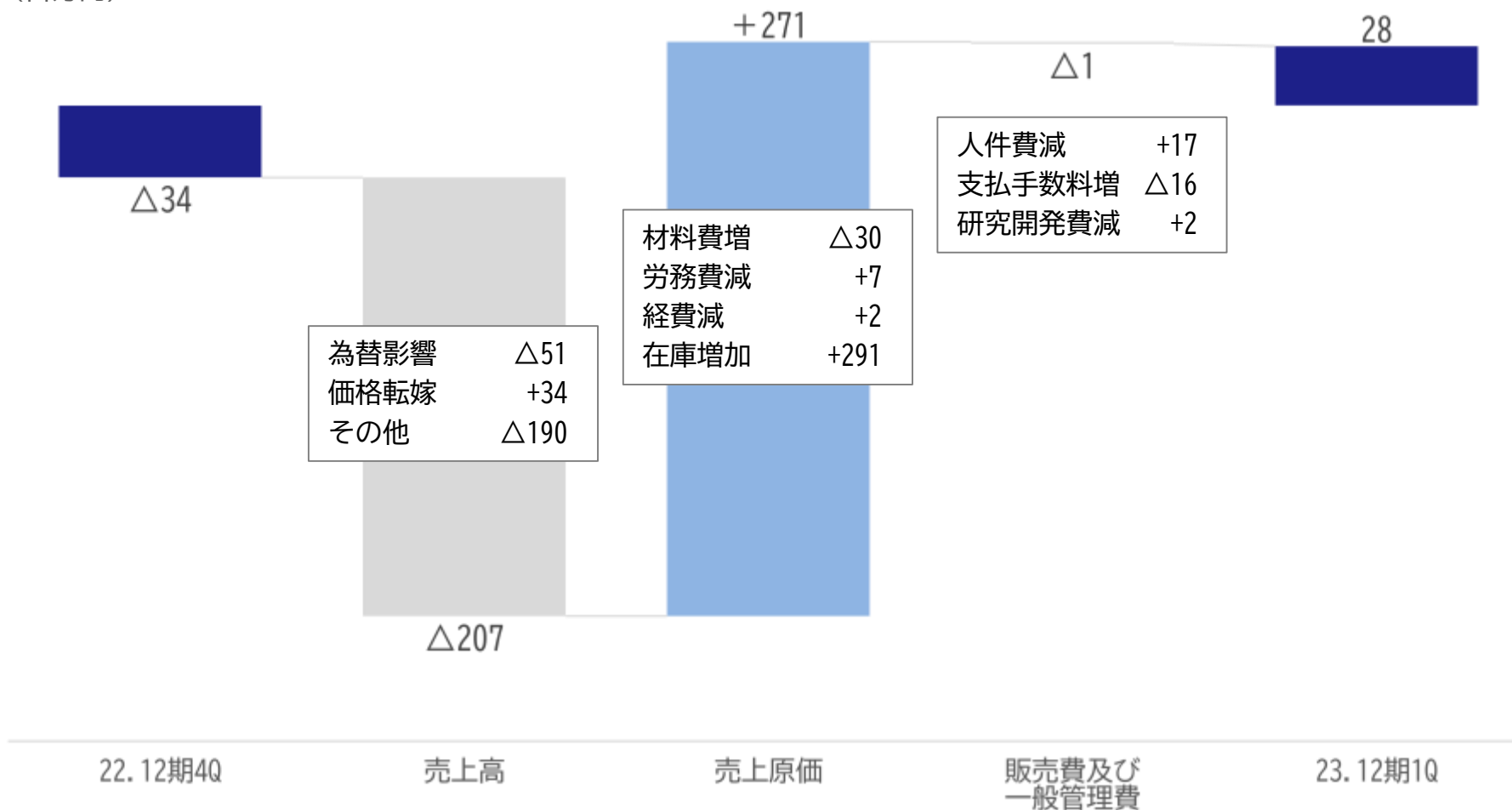


セグメント別

営業利益(1Q)の増減要因 (前四半期比) - リード端子

売上は大幅悪化するも蘇州工場移転に伴う一時的な在庫積み上げにより、セグメント利益は黒字化

(百万円)

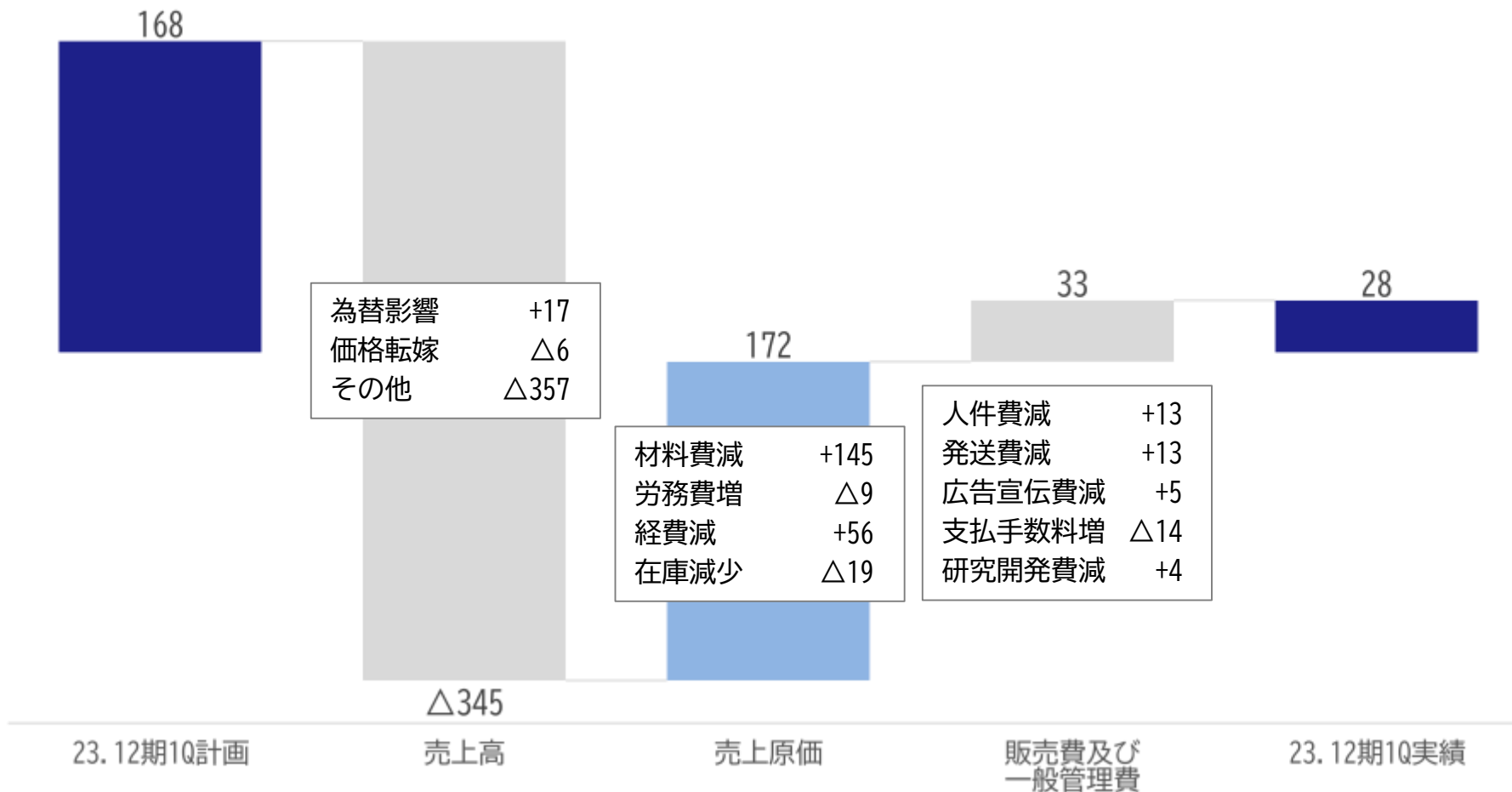


セグメント別

営業利益(1Q)の増減要因 (計画比) - リード端子

大幅な数量減の影響はあったものの、売上減に伴う材料費の減少やコストコントロールが一部寄与

(百万円)



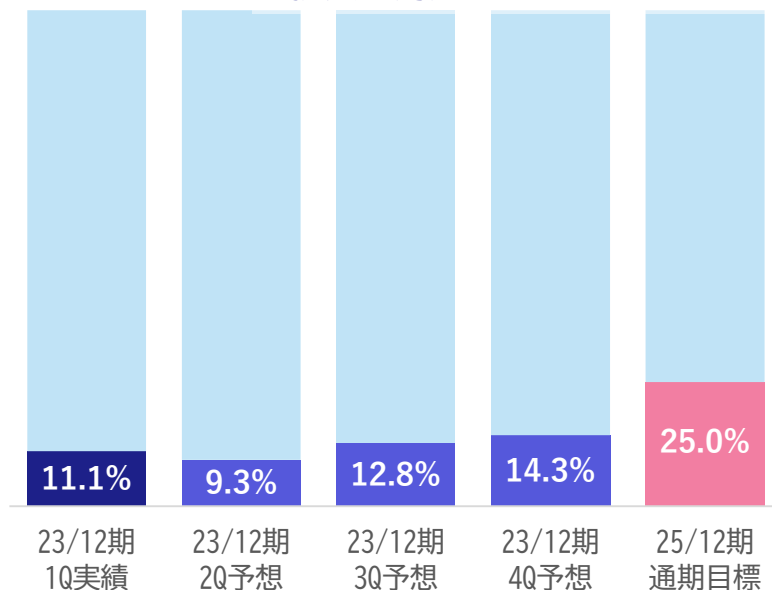
基盤事業（リード端子）の収益力強化を実現

1. 新商品の売上比率の改善

新商品の売上比率

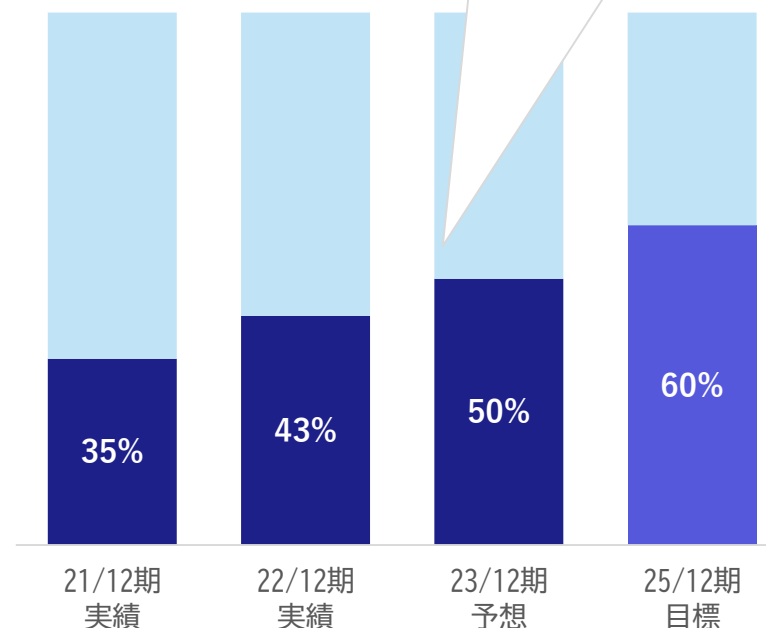


新商品の主力アイテムである「バリレス」タイプの生産体制を強化し、車載・駆動部、ブレーキ等に使用されるハイブリッドコンデンサ市場の拡大に対応



自動車市場向け売上比率（推定値）

第一四半期の自動車向け売上高比率は、前期（43%）から変わっていないと推測



新商品拡販活動は順調、採用・量産スケジュールは一部遅延

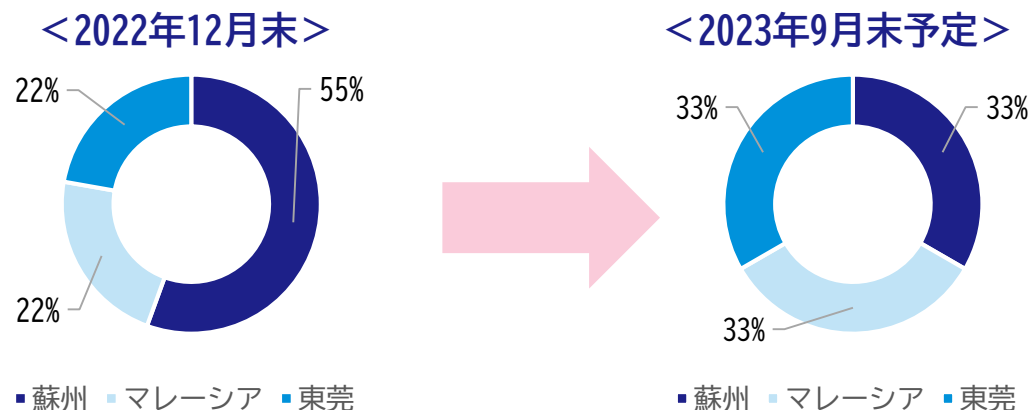
基盤事業（リード端子）の収益力強化を実現

2. 顧客別の価格是正交渉進捗状況ほか

- ✓ 主要顧客に対して、3月までに価格見直し交渉完了。4月から実行し、利益改善効果を見込んでいる
- ✓ 全主要顧客に対して材料価格スライド制導入。スライド算定期間の短期化（最長6ヶ月⇒最長3ヶ月）

3. 生産体制のリロケーション進捗状況

- ✓ 現地政府の要請により移転を一か月前倒し
- ✓ 6月初旬に旧工場での生産停止、順次設備を移設し7月からサンプル出荷開始、8月から顧客承認後順次量産スタート、10月移行完了
- ✓ 在庫積み上げは蘇州工場出荷分の4か月程度積み上げを5月までに完了予定



外部環境 - 非鉄金属相場の動向

アルミ・銅・錫等の市場価格は、昨年後半の下落トレンドから反転
現在は2021年の水準に近い状況

非鉄金属相場（LME）の推移



セグメント別業績(1Q) - 光部品・デバイス

サプライチェーンの混乱を契機とした在庫調整が解消せず、減収
海底ケーブル向けは期初想定より微増、陸上向けは厳しい状況が続く

(単位：百万円)

	2022年12月期		2023年12月期		2022年12月期		2023年12月期	
	1Q (1月-3月)	1Q (1月-3月)	対前年同期 増減	前年同期比	4Q (10月-12月)	1Q (1月-3月)	対直前四半期 増減	直前四半期比
売上高	1,901	1,656	△244	△12.9%	1,699	1,656	△43	△2.5%
営業利益	956	817	△139	△14.6%	804	817	+13	+1.7%
営業利益率	50.3%	49.3%	△1.0pt	—	47.3%	49.3%	+2.0pt	—

※百万円未満切り捨て

2023年12月期1Qの概況

● 在庫調整の影響が続く

- 海底ケーブル向けは、サプライチェーンの混乱を契機とした在庫調整が一部のお客様で続く
- 陸上光通信用向けは、米中摩擦による納入制限に加えて、データセンタ関連市場の調整により厳しい

● 研究開発と生産性向上に向けた投資

- 多芯化に対応した複合製品の開発・試作は順調に進展
- 組み立て工程の自動化、本社前工程での水害対策等BCP強化に向けた活動は順調に進捗

当社を取り巻く直近の市場環境の期初想定からの変化 (光部品・デバイス事業)

<市場環境・経営環境>

陸上向け光部品の需要低迷、厳しい状況が続く

- ・海底ケーブル向け光部品は、顧客ごとの変化はあるが、全体としては想定通り
- ・プロダクトミックスの変化により利益面ではプラスの影響
- ・陸上向け光部品(光ファイバレイ製品)は非常に厳しい状況

<第2四半期の見通し>

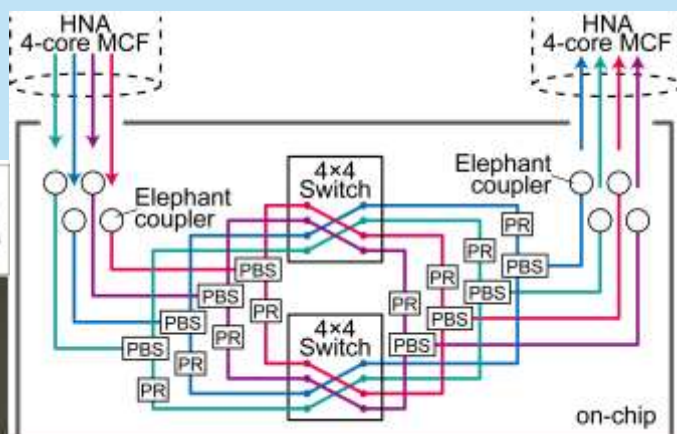
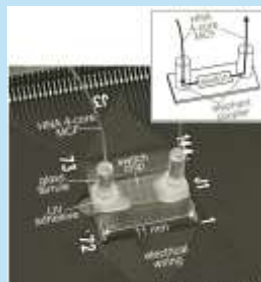
在庫調整が続くが、海底ケーブル向けで想定外の受注が入るなど、好転の兆しあり

- ・4月以降についても、顧客からの発注調整が継続
- ・一部顧客から期初想定外の長期一括受注が入るなど、下期に向けて、計画上積みの可能性
- ・陸上向け光部品については引き続き極めて厳しい状況が続くと予想

トピックス OFC2023研究成果発表

「次世代空間分割多重(SDM)伝送向け光デバイス」 産業技術総合研究所と共同開発

開発した4芯マルチコアファイバ用
スイッチングモジュール

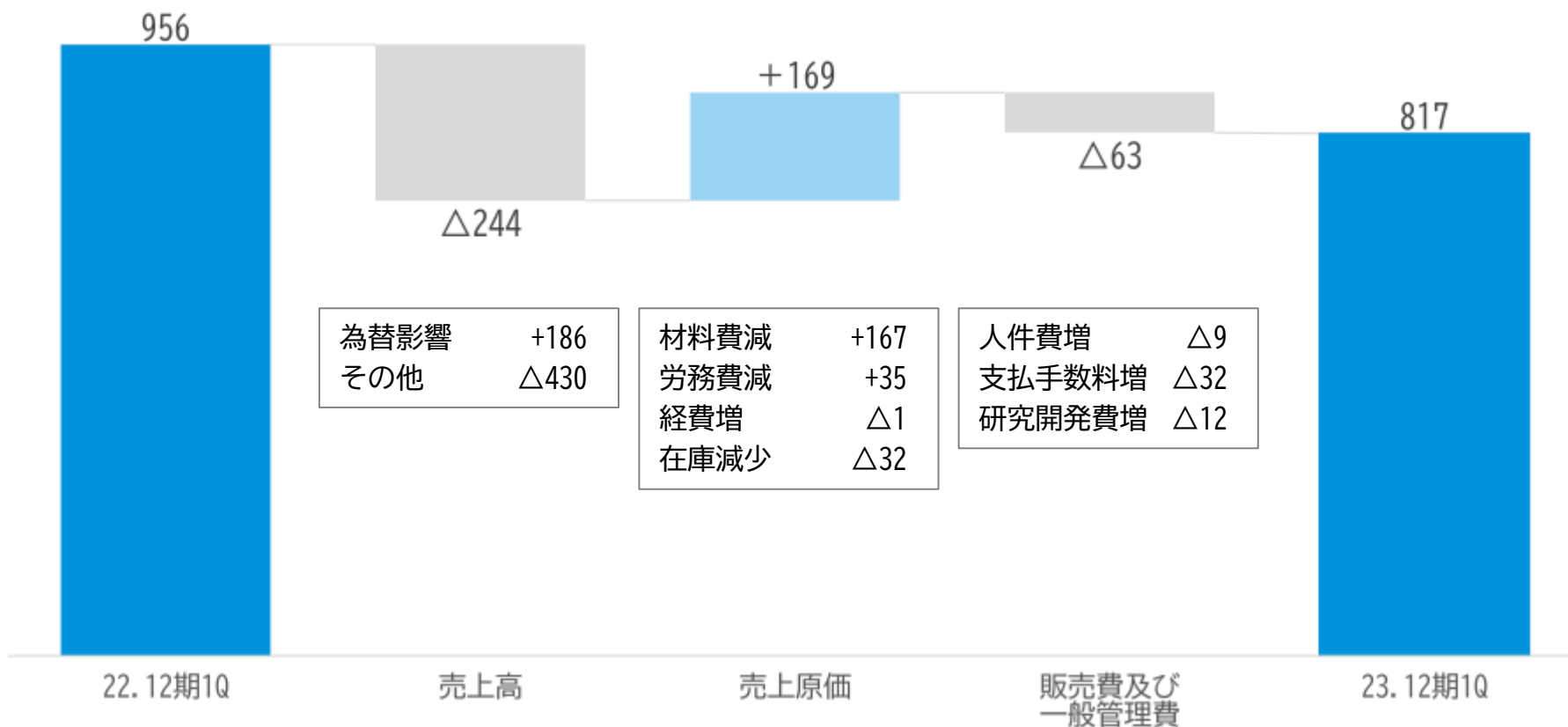


セグメント別

営業利益(1Q)の増減要因（前年同期比） - 光部品・デバイス

売上高は減少したが、プロダクトミックスの変化により営業利益の減少は小幅にとどまる

(百万円)

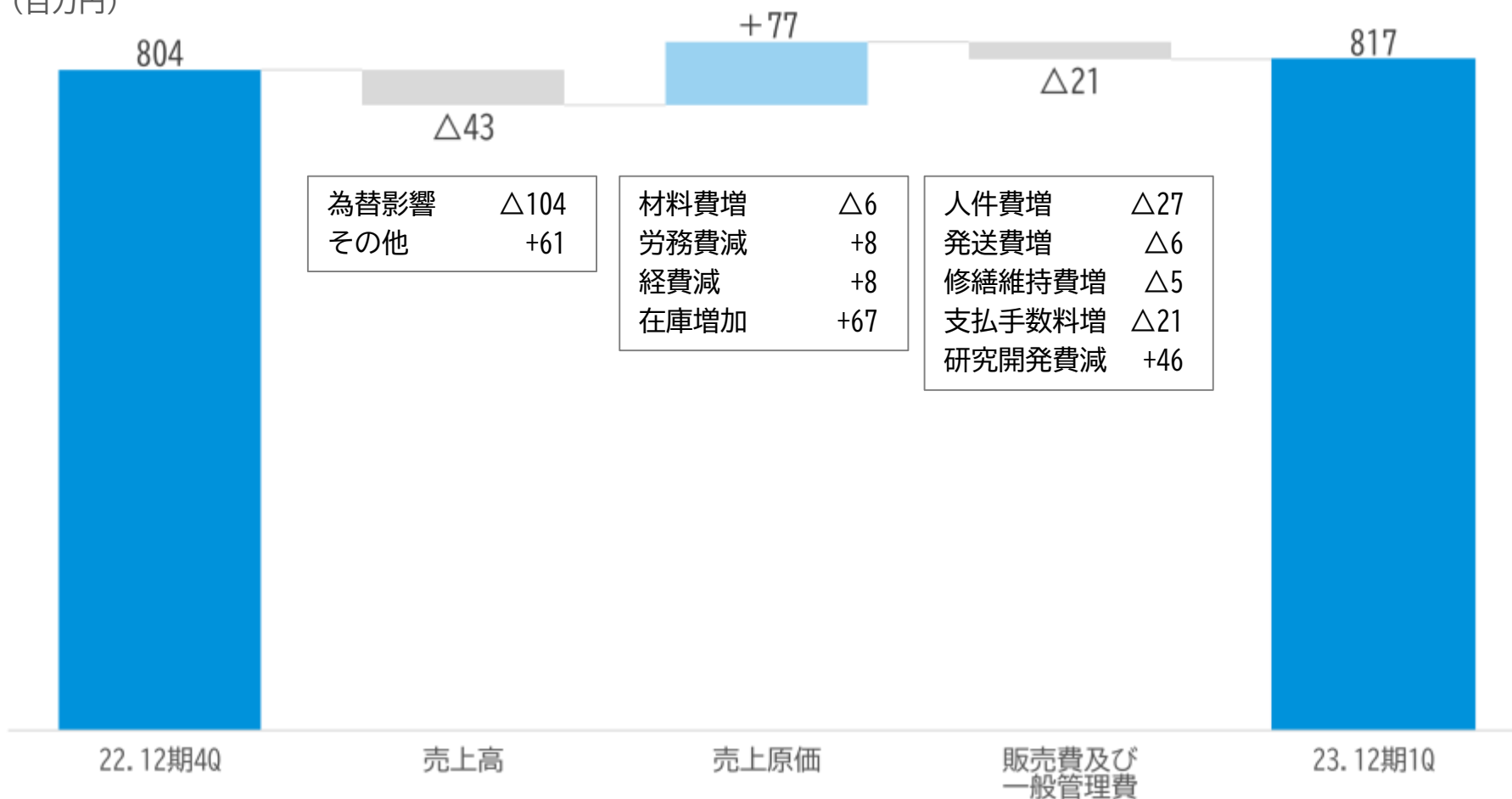


セグメント別

営業利益(1Q)の増減要因 (前四半期比) - 光部品・デバイス

サプライチェーンの混乱が徐々に回復し、前四半期比では数量が回復

(百万円)

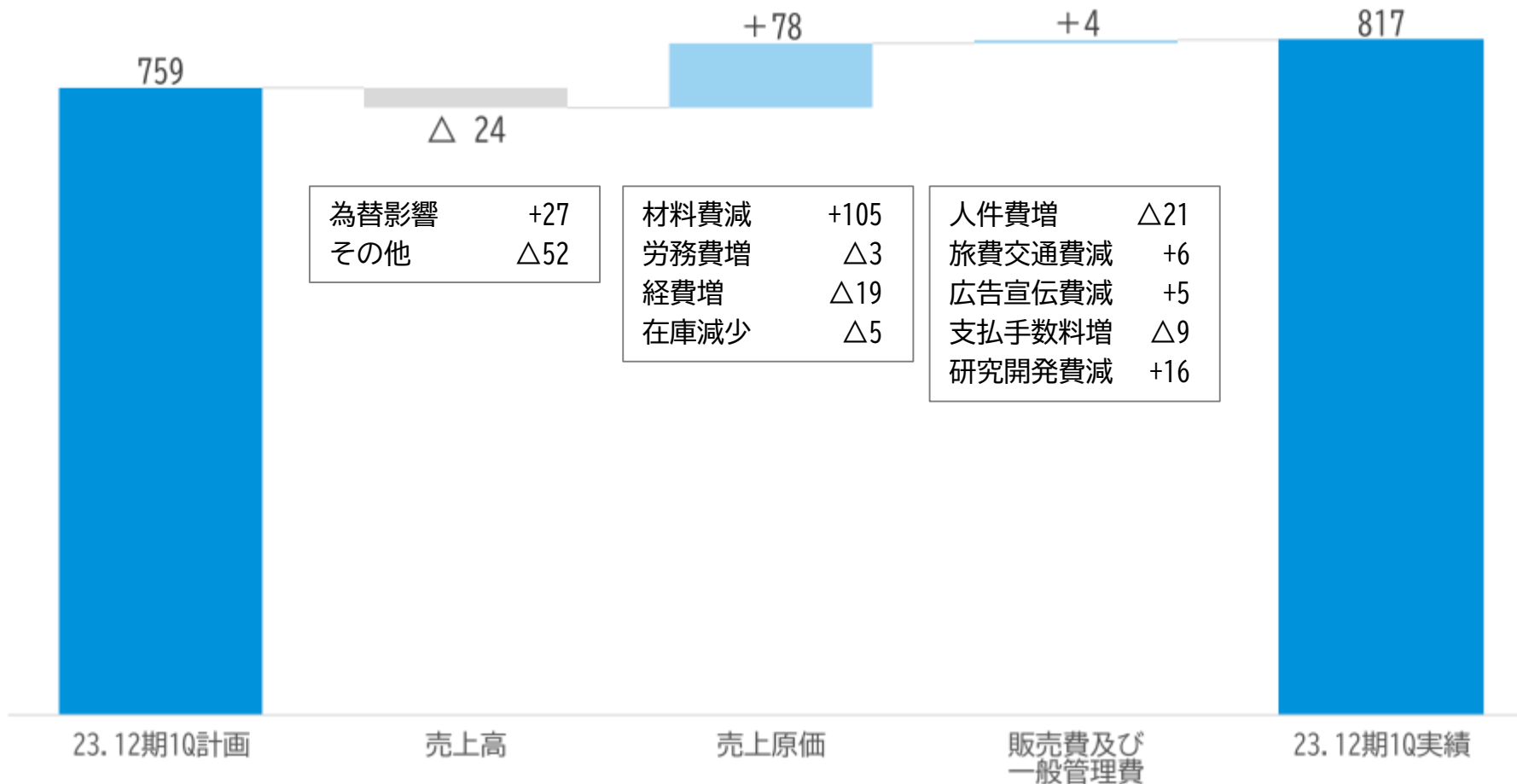


セグメント別

営業利益(1Q)の増減要因 (計画比) - 光部品・デバイス

プロダクトミックスの変化により、利益は計画比プラス

(百万円)



Ⅱ. 2023年12月期 業績見通し

2023年12月期業績の見通し

第1四半期の状況はリード端子について想定より厳しい。第2四半期については事業環境は厳しい状況が続くが、価格見直し、新商品売上向上のプラス効果が見込まれる予定

(単位：百万円)

	2022年12月期	2023年12月期（期初計画）				
	実績	上期予想	下期予想	通期予想	対前期増減	前期比
売上高	15,673	8,086	8,408	16,494	+821	+5.2%
リード端子事業	8,384	4,510	4,652	9,162	+778	+9.3%
光部品・デバイス事業	7,289	3,575	3,755	7,331	+42	+0.6%
営業利益	3,884	2,047	2,074	4,121	+237	+6.1%
営業利益率	24.8%	25.3%	24.7%	25.0%	+0.2pt	—
経常利益	4,443	2,027	2,057	4,084	△359	△8.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,066	1,398	1,420	2,819	△247	△8.1%
1株当たり当期純利益（円）	346.14	155.49	157.92	313.41	<為替感応度> 売上高80百万円/円 営業利益40百万円/円	実績に基づく 試算 （今回変更）
為替レート（期中平均）	131.64円/\$		130円/\$			

※百万円未満切り捨て

期初計画に対する現在の状況

<売上高面>

- ・ リード端子事業において、期初の想定以上の厳しい状況で推移。情報通信機器市場の調整深刻化と、車載市場においても欧州向けを中心に想定外の悪化。現時点では一部で改善の兆しがあるが、依然として全般的には厳しい
- ・ 光部品・デバイス事業では、第1四半期はほぼ想定線。海底ケーブル向けは期初想定比若干プラス。第2四半期においても在庫調整の影響は継続するが、今後は一部顧客から長期一括受注あり。陸上用は期初想定比悪化、今後も回復の目途はたっていない

<利益面>

- ・ リード端子は、新商品の売上比率改善と価格見直しが改善要因として寄与。売上減少によるマイナス分の下支え要因として期待
- ・ 光部品・デバイスは、プロダクトミックス変化による利益率改善要因が寄与。売上減少によるマイナス分の下支え要因として期待

この資料には、当社の現在の計画や業績見通しなどが含まれております。
それら将来の計画や予想数値などは、入手可能な情報をもとに、当社が計
画・予測したものであります。実際の業績などは、様々な条件・要素によ
りこの計画や予想数値とは異なる結果になることがあります。この資料は
その実現を確約したり、保証するものではありません。

湖北工業株式会社 IR担当

E-mail ir@kohokukogyo.co.jp

TEL 0749(85)3211 FAX 0749(85)3217